

教員と保護者はチーム 学校運営を共に行う

市教育委員会 参事（働き方改革担当）
福本 靖 さん



現場の経験を生かした
学校改革

「教育現場での経験を生かして、川西独自の学校の体制づくりをめざしています」
そう話すのは、4月から市教育委員会「働き方改革担当」の参事として勤める福本靖さん。3月末まで神戸市の中学校で校長として働きながら、川西市の「市PTAあり方検討会」で副座長を務めました。「長年、教員の業務負担がメディアを通じて問題視されています。しかし、単に労働時間を短縮するだけでは、根本的な学校運営の解決につながりません」

学校運営には
保護者の参加が不可欠

社会の変化に伴い、新しい取り組みが求められますが、同時に教員の業務内容の見直しも必要となります。「教育現場の課題を整理し、新しい学校の在り方を考えなければいけません。学校と保護者が二人三脚で取り組むことが必要です。保護者は家庭で、教員は学校で、子どもの様子をよく見て理解していま

す。チームとなって、学校運営を支えていくべきです」

保護者からの意見がきっかけで、福本さんが勤めていた中学校では大きな変化があったそうです。

「長年、高校入試が卒業式の翌日でした。入試に集中するために、卒業式の日程を変えてほしいという意見を受け、すぐに調整しました」

保護者の教員への信頼も高まり、良好な関係を築くことができたと言います。「保護者と協力し合うことができれば、業務が円滑に進み、負担が軽減されます。子どもたちと向き合う時間が充実したものになるでしょう」

勇気を持って実行する

新型コロナウイルス感染症対策や、新しい制度の導入。このような状況下だからこそ、学校の従来在り方を根本的に見直すチャンスだと福本さんは言います。

「まずは、川西の教育現場の声を聞き、教員や保護者の意見に耳を傾けます。新しいことを実行するには勇気が要ります。現状を知り、変えていくべきところは変えていく。それが私に求められる役割だと思っています。教員や保護者の皆さんに協力いただき、子どもたちの学校生活をより良いものにしたいです」



歯や口腔の健康



肥満や虫歯の原因に
進化と共に退化した現代人のかむ力

「主食：主菜：副菜」のバランスは、3：1：2が理想とされ、私たちの歯の役割もこれに近い4：1：2となっています。4は臼歯（奥歯16本。穀物などをすりつぶす）、1は犬歯（糸切り歯4本。肉などをかみ切る）、2は切歯（前歯8本。野菜などを細かく切る）、というようにヒト本来の食に合った構造になっています。

1回の食事時間とかむ回数は、戦前は22分1,420回でしたが、現在では11分620回で約2分の1といわれています。かみ応えをアップできるように次の①～⑥のように工夫をして、ゆっくりじっくり味わいましょう。

①食材（繊維質が多い、弾力があるなど）や、切り方（乱切りや厚切りなど）の工夫②野菜を生ではなく加熱することで、たくさん量を食することができ、かむ回数を維持できるので加熱時間を工夫する③食事中に取る水分を少なくして、だ液を出す④食材を組み合わせ、食感や味の変化を楽しむ⑤足の裏を床に付けて、正しい姿勢で食べる⑥テレビやスマートフォンを見ながらの「ながら食べ」をしないなどに気を付け、子どもの場合は、おとながよくかんで食べる姿を見せる。

よくかんで食べることが肥満や虫歯の防止につながります。かむことを心掛けることが、健康に生きるための力につながるでしょう。

生きる

「できる」と「できない」2

タカマサくんだって
「できる」ことはあるさ！

3年間、毎年3月末に兵庫県を徒歩で縦断・横断し、総計500*キロを私と一緒に歩いたタカマサくんですが、重度の知的障がいに伴う自閉スペクトラム症であったことは、4月号のコラムで紹介しました。

彼が特別支援学校小学部6年生だったころ、彼の両親が経営する小さな書店に家庭訪問した時、店番をしていた中3のお姉ちゃんと話す機会がありました。「来年は高校生やね、将来は何をめざすの」と聞くと、「分からない、タカマサがいるし。父さんも母さんもいい歳だし、私も結婚できないし」と答えました。6年間ずっと彼の担任だった私は、彼女とも6年間付き合いがあり、こんな話ができるようにはなっていました。彼女が言うには、大きくなって何もできない弟がいる以上、姉である自分が面倒を見ることになるだろうし、こんな弟がいれば普通の恋愛や結婚もできないだろうと。

今から35年も前のことです。今とは福祉や人権の状況もだいぶ違っていたので、真っ向から否定もできない私でした。

しかし、「タカマサは何もできないし…」と彼の「できない」点ばかりに目を向けておとなたちに我慢できず、私は、「タカマサくんだって、できることはあるさ！」と言い切ってしまった。他の人（それも健常者）にはできないことが、タカマサくんには「できる」ということを証明しなければならなくなったのです。

体力自慢の彼と私が、当時お金をかけずにできることは歩くことぐらいしかありませんでした。昭和63年3月、彼と私は、彼の「できる」ことを探す旅に出ました。

(motto ひょうご事務局長 栗木剛)

消費生活センターだより

「もうかる」うまい話はありません

「誰でもできる」「簡単な作業」
「高額収入」という広告は信じないで

【事例】 コロナ禍でバイトがなくなり、インターネットで検索していたら「スマホの簡単な操作で月50万円稼げる」という広告が出ていたので、1,000円払ってサイトの会員登録をした。サイトを運営する業者から電話があり「インターネット上で動画配信している人を探し、動画配信業者に紹介すると収入が発生する。そのノウハウとサポートの付いた有料プランがある。あなたならすぐに稼げると思う」といわれ、50万円のプランを勧められた。「お金がない」と伝えたら「消費者金融で年収200万円、借入目的は引越しと申告して、30万円借りてください。残りの20万円は稼ぎ出してから払ってもらえばいい」と言われた。サポートが始まったが質問しても的外れな返答ばかりだ。消費者金融の返済期限が迫っているのに全く稼げない。(20歳代 女性)

【回答】 金もうけのノウハウと称して、インターネットなどで売買される情報を情報商材と言います。「情報商材を購入したが、稼げる内容ではなかった」「サポート付きの情報商材の契約をしたがサポートが思ったようなものではなかった」など、近年、情報商材に関するトラブルが増加しています。事例の相談は業者と交渉中ですが難航しています。インターネットやSNSでは「誰でもできる」「簡単な作業」「高額収入」と簡単に稼げることを強調した広告が目につきます。うまい話を安易に信じないようにしましょう。

契約が高額だったり話が違ったりする場合はきっぱりと断り、クレジットカードでの高額決済や借金をしてまで契約しないようにしましょう。